



病院病理部

●主な業務

病理組織検査

病気の診断などを目的として採取した生検組織や、治療のために外科的に切除した手術材料を対象に行う検査。採取された臓器・組織は、臨床検査技師により標本にされ、病理医が顕微鏡を用いて観察し、腫瘍の有無や良悪性の鑑別、進行度合いなどの確定を行う。

細胞診検査

尿、喀痰、胸水、腹水、胆汁などの中にはがれ落ちた細胞や、乳腺、甲状腺などの病変部から穿刺吸引して採取した細胞、子宮から綿棒などを用いて採取した細胞などを顕微鏡で観察し、良悪性を鑑別したり、微生物、ウイルスの感染など種々の病変を診断。資格を持つ臨床検査技師がスクリーニングし、病理医がチェックする。

術中迅速検査(診断)

病変が体の深部にあるために生検による検体採取が難しく、術前の確定診断がついていない場合や、手術中に気が付いた病変などについて、診断がその場で必要となる場合に手術中の約10～15分で行われる。手術の術式や切除範囲を左右する重要な検査。

病理解剖

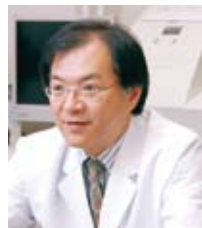
死体解剖保存法に基づき、病気で亡くなられたご遺体をご遺族の承諾のもとに解剖させていただくもの。死因や病気の経過、診断の妥当性、治療の効果などを調べるために、病理学を専門とする病理医により行われる。

病院病理部では、病理医と臨床検査技師がチームを組み、手術や内視鏡検査などで採取された組織、細胞を顕微鏡で観察し、疾病の原因や広がりなどについて詳しく調べる病理組織検査や細胞診検査、また亡くなった患者さんの診断の妥当性や治療の効果を検証するための病理解剖などを行なっている。



患者さんの不安を 少しでも減らすために

病院病理部 廣田 誠一主任教授



兵庫医科大学病院の病院病理部では内視鏡センターと協力して、連続迅速自動固定包埋装置を用いることにより、午前中に採取された胃・大腸内視鏡生検組織をその日のうちに病理(確定)診断する当日病理診断(ワンデイ・パソロジー)を行っています。これにより、患者さんは検査結果の説明を受けるためにあらためて来院する必要がなく、良性であれば結果説明までの不安な日々を過ごすことなく安心して帰ることができます。もしも悪

性で治療が必要となった場合でも、迅速に治療計画をたてることのできるのが特徴です。

また、地域全体の医療の向上を目指した取り組みも行っています。一般病院から標本の作製～診断までを請け負う受託検査では、当院の当日病理診断と同様、その日のうちに結果がわかるような体制を整えています。また、遠隔地の病理医がいない病院や、専門性が必要となる場合などの術中迅速診断を当院で行うため、標本の画像をデジタル画像として取り込んでもらい、遠隔診断できるようなシステムを導入しています。大学病院として数多くの症例を扱ってきた経験や、病理医それぞれの専門性をいかんなく発揮するために、地域の病院と連携して地域全体で効率的な病理診断を行えるよう尽力しています。